

令和4年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 実施要項

－ 地域共生社会の実現を目指す職種横断的研修 －

1. 目的（趣旨）

昨今の少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、地域においては社会的孤立や生活困窮、虐待など深刻で多様な問題が顕在化しています。

このような中、国においては、これらの複雑化・複合化したニーズに対応する包括的支援体制の構築に向け、「重層的支援体制整備事業」が法定化されるなど、地域共生社会政策が進められており、社会福祉の大きな転換期を迎えています。

これらに共通する視点は、個人の生活を、地域を基盤として支え、ネットワーク形成や社会資源開発を含めた地域づくりそのものを目指していくことであり、コミュニティソーシャルワークの考え方が、これからの社会福祉実践の基礎的な視点となっています。

また、誰もが安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められます。

本研修は、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、様々な地域社会生活課題への対応力を養い、解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶための機会として開催します。

2. 主催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会、富山県福祉カレッジ

3. 協力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

4. 後援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

5. 期 日

(1)前期課程 令和4年 10月20日(木)・21日(金)

(2)後期課程 令和4年 12月7日(水)・8日(木)

6. 定員（予定） 40名

7. 会 場

パレブラン高志会館（3階 薫風の間） 富山市千歳町 1-3-1 TEL：076-441-2255

8. 参加対象者

- (1) 市町村社協職員（地域福祉推進部門の担当者、日常生活自立支援事業及び成年後見制度担当者、生活福祉資金貸付事業担当者 等）
- (2) 地域包括支援センター職員
- (3) 障害者相談支援機関職員
- (4) 生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員
- (5) 市町村行政において地域福祉及び地域福祉計画を担当する職員
- (6) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (7) 介護支援専門員等
- (8) スクールソーシャルワーカー
- (9) 民生委員・児童委員、ケアネット活動リーダー等

9. 日 程

【前期課程】

【1日目】10月20日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30	開会・オリエンテーション	
9:40 (60分)	【講義①】 「地域共生社会政策時代における地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
10:50 (80分)	【演習①】 事例報告 ～県内の4事例から～	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
	事例① 城南もなみ居宅介護支援事業所 管理者・主任介護支援専門員 酒井昭子 氏 母親のAさん（76歳）と同居の息子Bさん（52歳）が夜中に外で怒鳴りあいの喧嘩をしており、取っ組み合いになったところを見た近隣住民が警察へ通報した。Aさんは警察に保護され、行政へ連絡が行き虐待ケースとして介入したところ、Aさんに認知症の症状があることから介護保険の対象者としてケアマネジャーの担当を依頼された。即日訪問を行い、家族の状況を確認した結果、Bさんには軽度の知的障害が疑われたため、他機関と連携した支援を開始した。 同居家族がお互いに福祉課題を抱えて生活していた世帯の支援について考えます。	
	事例② 魚津市こども課 家庭児童相談員 中 由起子 氏 難病（脊髄小脳変性症）を抱えた母のいる子育て困窮世帯。病気による養育困難のつらさにより、自ら虐待のおそれを訴え、9年前より支援開始。ネグレクト、母のリストカット、面前DVにより要保護児童家庭管理となる。以前（幼児期）の身体的虐待リスク期間を経て現在、思春期の子たちに生じている問題（不登校、非行、ヤングケアラー）に対応中。 親の病気と生活困窮により養育環境に課題を抱える家族への支援について考えます。	

事例③	<p>障がい者相談支援センターかたかご 主任相談支援専門員 辻 佳子 氏</p>	<p>自閉症を伴う知的障がいのある A さん。自宅で、母(71 歳)、姉(45 歳)、兄(43 歳)の 4 人暮らし。姉と兄は、精神疾患があるが福祉サービスに繋がっていない。兄が調子を崩すと姉や A さんに暴力をふるうことがあり、母が仲介することで家族間のトラブルを未然に防いでいる。今回、母親が入院することがあり、子供達だけの生活となった。母親は、自分自身の思いがけない入院から将来の暮らし方への不安が強まり、A さんの GH 利用を強く希望された。</p> <p>A さんや家族の思いを尊重しながら本人が望む生活が続けられるよう家族への支援について考えます。</p>
事例④	<p>相談支援事業所アプリコット 相談支援専門員 徳竹健太郎 氏</p>	<p>自閉スペクトラム症の児童 A さんとパニック障害の診断を受けている母親 B さん、間質性肺炎のある祖母の 3 人世帯。年長の A さんは、保育所への登園を拒み自宅で過ごしていたことから、母親が小学校に登校できるか心配になり相談。現在は、B さん付き添いのもと、週 2 日 5 限目のみ通学しているが、放課後等デイサービスの利用を拒み始めており、また、付き添いがないと登校しないと言っている。祖母は体力的な低下や持病の悪化から、家事をすることが困難になってきており、頼れる親族がない B さんの負担感が増している。</p> <p>これまでの生育歴や生活歴に目を向けながら、家族それぞれに必要な支援について考えます。</p>
12 : 10	昼食・休憩	
13 : 10 (90 分)	<p>【演習②-1】事例検討(1) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 個別課題アセスメント」</p> <p>報告のあった個別事例に基づき、必要なアセスメントの視点と枠組みについて考える</p>	<p>富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏</p> <p>富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏</p>
14 : 50 (130 分)	<p>【演習②-2】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」</p> <p>報告のあった個別事例に対する援助方針の立案とその具現化に必要なシステムについて考える</p>	<p>富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏</p> <p>富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏</p>
17 : 00	終了	

【2日目】10月21日（金）

時間	内容	講師等
9：30 (100分)	【演習②-2（続き）】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」	
11：20 (50分)	【演習③ ロールプレイ】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」 自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12：10	昼食・休憩	
13：10 (80分)	【演習③ ロールプレイ（続き）】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」	
14：30 (40分)	【講義②】 「ヴァルネラビリティのある人の特性とアウトリーチの必要性」 ヴァルネラビリティのある人の特性を理解し、発見の仕方や適切な相談支援へのつなぎ、信頼関係の構築について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
15：20 (100分)	【演習④-1】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（1）」 コミュニティソーシャルワークを展開するための圏域の設定や機能、地域生活課題の捉え方、問題解決のためのプログラム開発について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17：00	終了	

※前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。

【後期課程】

【1日目】12月7日（水）

時間	内容	講師等
9：00	受付	
9：30 (170分)	【演習④-2】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（2）」 ・問題解決プログラム立案、グループ発表 ・プログラムの立て方、データ活用、実現するための手順や方法等について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏

12:20	昼食・休憩	
13:20 (60分)	【演習④-2(続き)】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発(2)」	
14:30 (150分)	【演習⑤】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークの形成支援とそれを実行するための仕組みづくりについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

【2日目】12月8日(木)

時間	内容	講師等
9:30~ (150分)	【演習⑤(続き)】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:00	昼食・休憩	
13:00~ (140分)	【演習⑤(続き)】	
15:30~ (90分)	【総括講義】 地域共生社会の実現に向けて専門職に求められる役割や必要な視点や考え方を再確認するとともに、今後のコミュニティソーシャルワーク実践のポイントを押さえる	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
17:00	終了	

10. 参加申込み

- (1) 申込期限 令和4年9月30日(金)
- (2) 申込方法 参加申込は、Google フォームからお申込みされるか、別紙「参加申込書」に必要な事項を記入の上メールで送信ください。
Google フォームへのアクセス及び開催要項並びに参加申込書のダウンロードは、本会(福祉カレッジ)ホームページからできます。
URL <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>
メール oohata@wel.pref.toyama.jp

(3) 参加費 10,000円 (テキスト代込み)

7,400円 (テキスト代なし)

(テキストは、『コミュニティソーシャルワークの新たな展開』(中央法規、2019年6月)を使用します。既にテキストをお持ちの場合やご自身で購入される場合は、参加費は7,400円となります。)

(4) 参加費及びテキスト代金のお支払い方法

10月14日(金)までに下記指定口座へお振込みください。

なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 No.1083785 口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会
--

(5) その他 申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。その際は、申込期限後、10日以内にご連絡します。

11. その他

- (1) 前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。
- (2) 全課程の受講を条件に修了証書を交付します。本研修課程の修了者には、別途本会が開催するコミュニティソーシャルワーク実践者フォローアップ講座の受講資格が得られます。

12. 新型コロナウイルス感染症への対策

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止等のために研修会を中止する場合は、各受講者(申込担当者)へ事前にご連絡いたします。
- 受講定員を限定し、6人以下で一組のグループ編成を行います。
- 研修当日までの2週間以内に発熱や咳、風邪症状等のある方は参加をご遠慮ください。
- 会場にアルコール消毒を準備しますので、手指消毒やこまめな手洗いをお願いします。
- 研修中は適宜会場の換気を行いますので、防寒着等温度調節できるようご準備願います。
- 研修受講にあたってはマスク着用をお願いします。

13. 問合せ先

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 [担当：大畑]

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL：076-432-6123 FAX：076-432-6124 E-mail：oohata@wel.pref.toyama.jp